

## 学長定例記者会見要項

日 時： 令和元年7月25日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

### 発表事項

1. 2019年6月山形県沖地震の被害に関する調査を実施（速報）  
～墓石の変位や転倒に着目 局所的な震度の強さを考察～
2. 蔵王の樹氷（アイスモンスター）に関する新知見  
～温暖化要因の分析と飛来物の起源・飛来経路解析～
3. 山形大学クラウドファンディング第2弾  
～90年ぶりに再会した左脚を接合し結髪土偶を立ち上がらせたい！～
4. 山大生が最上義光歴史館で特別展を実施  
～連携展「山形めめめ～江戸のトレンドランキング」が開幕しました！～

### お知らせ

1. 「高山岩男文庫」を小白川図書館で展示しています
2. 第21回基盤教育ワークショップの開催について
3. 高校生対象『生物の多様性を考える－土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用－』を鶴岡キャンパスで開催
4. アフリカ地域の農業関係者が山形大学農学部で研修を開始
5. 小学生対象「夏だ！科学体験教室」を庄内で開催
6. 地域教育文化学部公開講座「ウォーターレス・リトグラフ体験」を開催
7. シンポジウム『『昭和』を生きた台湾青年 王育徳』開催

### （参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和元年9月5日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

## 学長定例記者会見（7月25日）発表者

### 1. 2019年6月山形県沖地震の被害に関する調査を実施（速報） ～墓石の変位や転倒に着目 局所的な震度の強さを考察～

学術研究院准教授（地質学・古生物学）

もとやま いさお  
本山 功

大学院理工学研究科博士前期課程（理学専攻）1年

まかべ とよはる  
眞壁 豊治

### 2. 蔵王の樹氷（アイスモンスター）に関する新知見 ～温暖化要因の分析と飛来物の起源・飛来経路解析～

学術研究院教授（環境科学）

やなぎさわ ふみたか  
柳澤 文孝

### 3. 山形大学クラウドファンディング第2弾 ～90年ぶりに再会した左脚を接合し結髪土偶を立ち上がらせたい！～

附属博物館長

あらみや まなぶ  
新宮 学

### 4. 山大生が最上義光歴史館で特別展を実施 ～連携展「山形めめめ～江戸のトレンドランキング」が開幕しました！～

学術研究院准教授（博物館学）／附属博物館学芸研究員

さとう こと  
佐藤 琴

理学部 4年

はせがわ たつ  
長谷川 立

令和元年（2019年）7月25日

## 2019年6月山形県沖地震の被害に関する調査を実施（速報）

～ 墓石の変位や転倒に着目 局所的な震度の強さを考察 ～

### 【本件のポイント】

- 山形県鶴岡市から新潟県村上市府屋の沿岸地域において、墓石の変位や転倒に着目した地震被害の調査を、本学の研究グループが実施。
- 小岩川地区（鶴岡市）の墓地で墓石の転倒率が最も高く、局所的に震度6強の揺れが示唆、地形による地震動の増幅の影響が考えられる。
- 由良地区と大山地区（いずれも鶴岡市）の墓地においては、震度6弱の揺れが示唆され、震源から離れた大山地区での強い揺れは、1964年の新潟地震のケースと共通する。



### 【概要】

2019年6月18日22時22分に山形県沖の日本海を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生し、山形県内では鶴岡市で震度6弱の揺れが観測された。山形県・新潟県・秋田県の各地で家屋の損壊、塀の倒壊、液状化、墓石の転倒などの被害が発生した。

山形大学学術研究院の本山功 准教授（地質学・古生物学）の研究室では、翌19日と22日、23日および7月10日に鶴岡市から新潟県村上市府屋にかけての沿岸地域一帯において被害状況を調査し、特に墓石の変位や転倒状況のデータを収集した。今回の調査では、和型墓石の転倒率に着目して震度を推定し、震度マップを作成するとともに、局所的に地震動を増幅させた要因についても考察した。

### 【墓石と地震学 -なぜ墓石に着目したのか-】

国内の墓石は形状や材質がおおむね共通しており、また墓地は地震計の設置点に比べて数多く高密度に分布する。これらの理由により、墓石の変位（並進、回転、転倒）は同一基準で広域的な被害状況の比較や地震動の解析に有益とされる。例えば、直方体の形をした和型墓石の転倒率は震度の目安となることが知られている。

### 【調査結果】

小岩川地区（鶴岡市）の墓地において、局所的に50%を超える転倒率が認められ、震度6強の揺れが推定された。これは山地形の尾根部において地震動が増幅されたためと考えられる。51の調査地点のうち3地点（大山、由良／鶴岡市、府屋／村上市）で6弱、8地点（大山、山五十川、楨代、小国／鶴岡市、岩石／村上市など）で5強の震度が推定された。残り39地点は、震度5弱以下と推定される。1964年の新潟地震の際も、震源から離れた大山地区において周辺よりも被害が大きかったことが知られており、類似したメカニズムで発生した今回の地震でも同様の傾向が認められた。

小岩川地区は震源に最も近いことから家屋や墓石に著しい被害が生じたと考えられるが、近隣の大岩川や鼠ヶ関における墓石転倒率はほぼ0%であり、小岩川地区を襲った強い揺れが局所的であったことが改めて示された。一方、地震計により震度6弱が計測された温海川付近における墓石転倒率は0%（推定震度5弱以下）であり、計測震度と推定震度に関係が生じた。

お問い合わせ

学術研究院准教授 本山功（地質学・古生物学）

TEL 023-628-4776 メール i-motoyama@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

令和元年年（2019年）7月25日

## 蔵王の樹氷（アイスモンスター）に関する新知見 ～ 温暖化要因の分析と飛来物の起源・飛来経路解析 ～

### 【本件のポイント】

- 蔵王山測候所の観測記録（昭和18-22年）を解析し、樹氷の衰退は蔵王山頂気温の上昇が原因と断定された。
- 成層圏で生成したベリリウム7（Be-7）がバイカル湖北にできた圏界面ギャップによって対流圏に降下し、北西の季節風で蔵王に飛来したことが分かった。
- 水素・酸素同位体比の測定結果から、蔵王の樹氷を構成する水の起源に日本海（冬型の場合）と東シナ海・太平洋（南岸低気圧の場合）があることが分かった。
- 樹氷に含まれている大気汚染物質は減少傾向にあり、華北平原に滞留している大気汚染物質の減少と、飛来経路がより南に変化していることが要因であることが分かった。



蔵王山の山頂にあった蔵王山測候所跡  
(昭和37年刊「山形県の気象」山形地方気象台より)

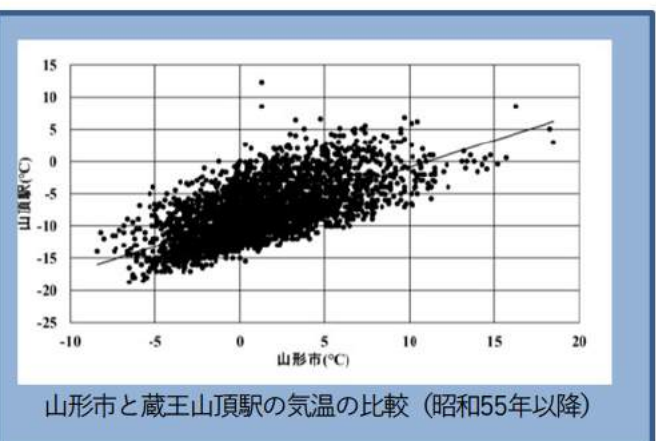
### 【概要】

山形大学学術研究院の柳澤文孝教授（環境科学）、弘前大学被ばく医療総合研究所の赤田尚史教授らの研究グループは、山形気象台で見つかった蔵王山測候所の観測記録（昭和18-22年）の解析結果などから、昭和10年代以降に見られる樹氷の衰退要因は温暖化に伴う蔵王山頂の気温の上昇であると判断した。

また、樹氷への飛来物質を分析し、成層圏で生成されるベリリウム7（Be-7）の飛来ルートや樹氷を構成する水の起源には日本海だけでなく、東シナ海や太平洋があること、大気汚染物質が減少傾向にあることなどを明らかにした。

### 【研究手法・研究成果】

- (1) 山形市内の気温は上昇しており、上昇の原因は温暖化とされている。また、昭和10年代以降、樹氷は衰退（生成高度の上昇・生成期間の短縮・期間短縮に伴う樹氷のスリム化など）傾向にあり、衰退の要因は気温の上昇であると説明されている。一方、山形市内の気温上昇について、廃熱によるのではないかとの問題提起があった。そこで、廃熱の影響のない蔵王山頂の気温と山形市内の気温について、記録が残っている昭和55年以降について比較したところ、山形市内と蔵王山頂の気温におよそ9度の温度差があり、両者に相関が認められた。

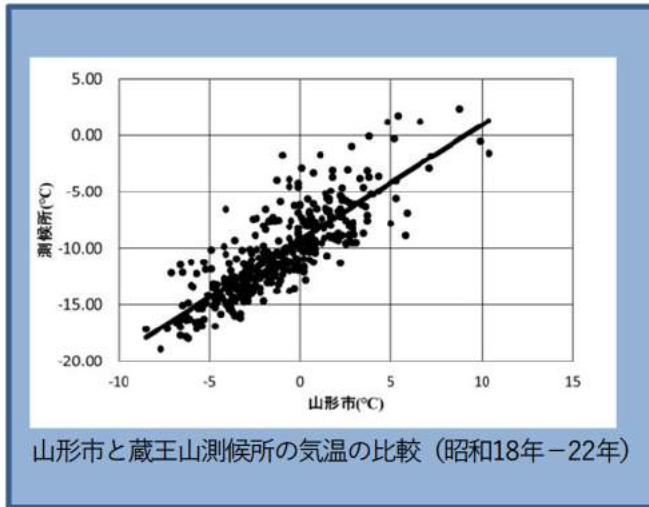


### （お問合せ先）

学術研究院教授 柳澤文孝（環境科学）  
（山形大学認定 蔵王樹氷火山総合研究所）  
電話 023-628-4648

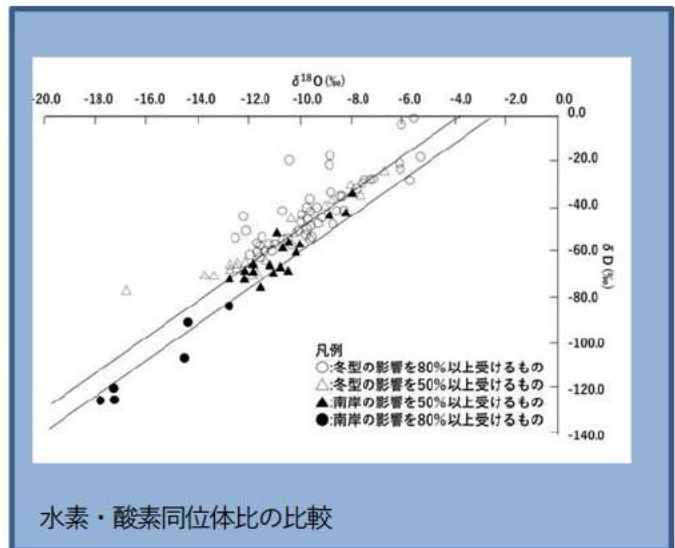


今回、山形気象台で戦中・戦後（昭和18年～昭和22年）に蔵王山頂で気象観測していた蔵王山測候所の観測記録が見つかった。観測結果を解析したところ、山形市内と蔵王山頂の気温におよそ9度の温度差があり、両者に相関が認められた。この結果は現在と同様である。従って、少なくとも昭和18(1943)年から平成28(2016)年までの約70年間について、蔵王山頂の気温は山形市内の気温と同様に上昇していたことになる。以上から、昭和10年代以降に見られる樹氷の衰退の要因は温暖化に伴う蔵王山頂の気温の上昇であると判断される。



(2) 蔵王の樹氷からベリリウム7 (Be-7) を検出した。Be-7は成層圏で生成されることから、Be-7が検出される場合、観測点あるいはその近くの上空から降下していると考えられる。今回の検出された中でも濃度の高い場合について、気象データの解析を行ったところ、Be-7はバイカル湖より北にできた成層圏と対流圏の境界である圏界面のギャップから対流圏に降下し、そのあと、冬の季節風によってシベリアから日本まで数千キロを移動して蔵王に飛来したことが分かった。

(3) 蔵王の樹氷を構成する水は北西の季節風で上昇した日本海の海水が起源と考えられてきた。しかし、実測されたことはなかった。そこで、樹氷の水素・酸素同位体比を測定したところ2つのグループに分かれることがわかった。両同位体比とも高いグループ(○△)は、冬型であり、水の起源は日本海の海水である。一方、両同位体比とも低いグループ(●▲)は、南岸低気圧であり、水の起源は東シナ海・太平洋の海水であることが分かった。これまで、南岸低気圧のように南から風が吹いてくる際には蔵王山頂の気温が上がり、樹氷が成長しない、あるいは、樹氷が脱落するとされてきた。今後は、水蒸気発生源の特定、南岸低気圧の際に樹氷がどのように成長するのか検討する必要がある。



(4) 蔵王の樹氷に含まれている大気汚染物質の濃度が高くなるのは、華北平原に大気汚染物質が滞留していること、および、滞留している大気汚染物質が蔵王に飛来する場合である。しかし、近年、蔵王の樹氷に含まれている大気汚染物質の濃度は減少傾向にある。これは、華北平原に滞留している大気汚染物質の濃度が低減していること、および、温暖化に伴い飛来経路がこれまでより南方向に変化していることが要因であることが分かった。

**【特記事項】**

本研究は、弘前大学被ばく医療総合研究所の赤田尚史教授との共同研究として行われている。

本研究は、9月8日～11日に山形で開催される雪氷研究大会（2019 山形）で発表する。また、山形大学附属博物館で行われる「蔵王展（8月3日～10月24日）」で9月10日・11日にポスター展示する予定である。



主催：公益社団法人日本雪氷学会・日本雪工学会／後援：山形大学附属博物館  
雪氷研究大会（2019・山形）公開講演会

# 蔵王の 火山・樹氷の 歴史と現状

入場無料  
事前申込不要

🕒 日時：2019年9月9日 月 14:30~16:00 (開場 13:30)

📍 場所：山形テルサ テルサ・ホール



## 蔵王の火山の歴史と現状

伴雅雄

山形大学 学術研究院 教授・山形大学 蔵王樹氷火山総合研究所 副所長



## 蔵王の樹氷の歴史と現状

柳澤文孝

山形大学 学術研究院 教授・山形大学 蔵王樹氷火山総合研究所 所長

🕒 東北地方太平洋沖地震や越境汚染・温暖化によって蔵王山の自然環境は大きく変わってきています。蔵王の火山と樹氷の歴史と現状について、最新の研究成果を交えてお話しします。

## 雪氷研究大会 (2019・山形)

2019年9月8日(日)~11日(水)  
山形テルサ・山形大学小白川キャンパス

主催▶(公社)日本雪氷学会・日本雪工学会  
後援▶山形県・山形市・克雪技術研究協議会

## 雪氷楽会 in 山形

2019年9月8日(日) 10:00~15:00

體城セントラル

【2F】山形県産業科学館 フリースペース  
【3F】山形市保健所 大会議室  
【4F】山形県産業科学館 発明工房

主催▶公益社団法人日本雪氷学会  
共催▶山形県産業科学館

お問い合わせ

雪氷研究大会（2019・山形）実行委員会大会事務局

〒990-2313 山形市松原 777 日本地下水開発株式会社 山谷 睦

TEL. 023-688-6002 ◇ URL: <https://sites.google.com/view/2019jcsir/>



# 蔵王

## 樹氷・御釜・信仰

『自然科学』

地質  
地形  
鉱物  
植生

『人文科学』

歴史  
宗教  
美術



樹氷 / Juhyo



御釜 / Okama

### 関連企画

公開講座「山形大学の蔵王研究」

1回目 / 9月7日【土】13時30分～15時

2回目 / 9月28日【土】13時30分～15時

会場 / 山形大学小白川キャンパス内の教室を予定  
申込み / 必要

公開講演会（日本雪水学会・日本雪工学会主催）

日時 / 9月9日【月】14時30分～16時

会場 / 山形テルサ・テルサホール

申込み / 不要（直接会場へお越しください。）

# 山形大学

2019年

8月3日【土】～10月24日【木】

【会場】

山形大学附属博物館・小白川図書館（入館無料）

【お問い合わせ】

山形大学附属博物館

990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL / 0233-6228-4930

FAX / 0233-6228-4668

E-mail / [hakukan@jim.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:hakukan@jim.kj.yamagata-u.ac.jp)

【主催】

山形大学蔵王樹氷火山総合研究所・

山形大学附属博物館・小白川図書館



信仰 / Religion



# 蔵王と山形大学 — 樹氷・御釜・信仰 —

会期：2019年8月3日（土）～10月24日（木）

会場：山形大学附属博物館・小白川図書館（入場無料）

※ 附属博物館では実物資料、小白川図書館では蔵王に関する図書を展示しています。

2019年は山形大学が創立されて70年を迎える記念の年です。

地域に立脚した山形大学の研究活動を振り返るべく、蔵王連峰をとりあげます。

蔵王連峰は、2018年1月に噴火警戒レベルが1から2に引き上げられた（3月に1に引き下げられた）

活火山であり、温泉やスキー、樹氷などが多くの人々を引き付ける

山形市の貴重な観光資源でもあります。

それだけでなく、古くから人々の信仰を集める聖なる山です。

本展は山形大学における自然科学、人文科学の両面からの蔵王研究を紹介し、

山形大学の研究成果を市民に還元することを目的としています。

## 関連企画

### 【公開講座】

山形大学の蔵王研究／全2回

1回目：9月7日（土）／「東のお山、蔵王権現信仰」講師：岩鼻通明（山形大学名誉教授）

2回目：9月28日（土）／講師：柳澤文孝（山形大学学術研究院教授）

● 会場：山形大学小白川キャンパス内の教室を予定

● 申込み：必要（お電話もしくはmailにて申込み後、当館より送付する指定の振込用紙で受講料をお振込いただけます。）

● 受講料：各回500円、2回参加の方は1,000円

● 申込み先：山形大学附属博物館（TEL：023-628-4930 / E-mail：hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp）

### 【公開講演会】

9月9日（月）

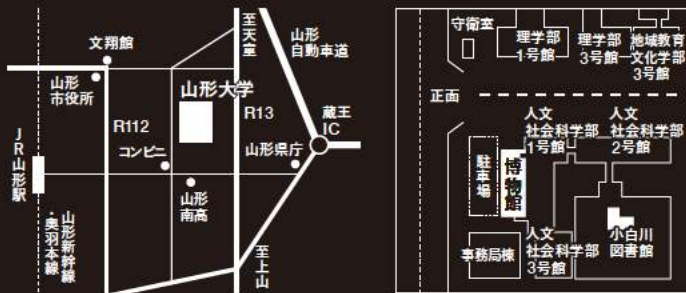
「蔵王の火山の歴史と現状」講師：伴雅雄（山形大学学術研究院教授）

「蔵王の樹氷の歴史と現状」講師：柳澤文孝（山形大学学術研究院教授）

● 会場：山形テルサ・テルサホール

● 申込み：不要（直接会場へお越しください。）

● 参加費：無料



8月	附属博物館 ● = 09:30 - 17:00	小白川図書館 ※ 開館日時不定期
3 土	09:00 - 16:00	09:00 - 16:00
4 日		
5 月	●	08:15 - 21:00
6 火	●	08:15 - 21:00
7 水	●	08:15 - 21:00
8 木	●	08:45 - 17:00
9 金	●	08:45 - 17:00
10 土		
11 日		
12 月		
13 火		
14 水		
15 木		
16 金		
17 土		
18 日		
19 月	13:00 - 17:00	11:00 - 17:00
20 火	●	11:00 - 17:00
21 水	09:30 - 12:00	11:00 - 17:00
22 木	●	11:00 - 17:00
23 金	●	11:00 - 17:00
24 土		
25 日		
26 月	●	11:00 - 17:00
27 火	●	11:00 - 17:00
28 水	●	11:00 - 17:00
29 木	●	11:00 - 17:00
30 金	●	11:00 - 17:00
31 土		

※ 空欄は休館日

9月	● = 09:30 - 17:00	● = 08:45 - 17:00
1 日		
2 月	●	●
3 火	●	●
4 水	●	●
5 木	●	●
6 金	●	●
7 土		
8 日		
9 月		●
10 火	●	●
11 水	●	●
12 木	●	●
13 金	●	●
14 土		
15 日		
16 月		●
17 火	●	●
18 水	●	●
19 木	●	●
20 金	●	●
21 土		
22 日		
23 月		●
24 火	●	●
25 水	●	●
26 木	●	●
27 金	●	●
28 土		
29 日		
30 月	●	●

※ 空欄は休館日

10月	● = 09:30 - 17:00	● = 08:15 - 21:00
1 火	●	●
2 水	●	●
3 木	●	●
4 金	●	●
5 土	11:00 - 17:00	11:00 - 18:00
6 日	11:00 - 17:00	11:00 - 18:00
7 月	●	●
8 火	●	●
9 水	●	●
10 木	●	●
11 金	●	●
12 土	11:00 - 17:00	11:00 - 18:00
13 日	11:00 - 17:00	11:00 - 18:00
14 月	●	●
15 火	●	●
16 水	●	●
17 木	●	●
18 金	●	●
19 土	11:00 - 17:00	11:00 - 18:00
20 日	11:00 - 17:00	11:00 - 18:00
21 月	●	●
22 火	●	●
23 水	●	●
24 木	●	●

※ 空欄は休館日



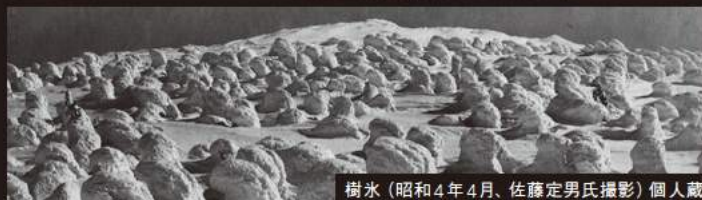
ハクサンチドリ（ラン科）



コマクサ（ケシ科）



コバイケイソウ（シュロソウ科）



樹氷（昭和4年4月、佐藤定男氏撮影）個人蔵



観光地百選シリーズ蔵王山24円切手（1961年発行）個人蔵

表面 上から：樹氷（昭和4年4月、佐藤定男氏撮影）個人蔵／御釜／蔵王大権現木像（山形市下宝沢）一般社団法人山形市観光協会提供



令和元年（2019年）7月25日

## 山形大学クラウドファンディング第2弾

～90年ぶりに再会した左脚を接合し結髪土偶を立ち上がらせたい！～

### 【本件のポイント】

- 結髪土偶の左脚接合のためクラウドファンディングをスタートしました。  
期間は2019年7月22日(月)～9月20日(金)まで。目標金額は160万円です。
- 山形大学では2回目、附属博物館では初めての挑戦です。
- 達成すればこれまで不明であった土偶の内部や結髪土偶の全体像が明らかになります。



### 【概要】

山形大学附属博物館の代表的な収蔵資料である結髪土偶<sup>(※1)</sup>は大正時代末頃寒河江市の石田遺跡<sup>(※2)</sup>より出土しましたが、長らく脚部の存在は不明のままでした。しかし、郡山女子大学短期大学部會田容弘教授の指摘により寒河江市所蔵の土偶脚部(安達宣也氏寄贈考古資料)が結髪土偶の一部であることが分かりました。その後、寒河江市より左脚を寄贈いただき、上半身と並べて展示しています。

実際に上半身と左脚を合わせてみた際、過去の復元箇所が邪魔になることが分かりました。クラウドファンディングは、この箇所を取り除き、脚を接合することを目的として行います。また、一度古い修復箇所を解体し、クリーニング・顔料の調査を行います。そして、皆様の力で立ち上がった姿でまたお客様をお迎えするため、専用の展示台を作成します。

### 【背景】

当該結髪土偶は、寒河江市の石田遺跡より出土し、大正末頃寒河江の大地主安達又三郎が所蔵していました。同じく、脚部も安達又三郎が収集したことが分かっています。そして、上半身は西村山郡教育会の郷土博物館へ、脚はそのまま所蔵者の家に伝わりました。その後、上半身は西村山郡教育会から山形県教育会の郷土博物館、そして山形師範学校の郷土室（山形大学附属博物館の前身）に移り、脚は寒河江市に寄贈されました。

昨年7月、郡山女子大学短期大学部教授 會田容弘氏の指摘により、寒河江市所蔵の土偶脚部が本学所蔵の結髪土偶の一部であることが断面の状態や腰の刺突文<sup>(※3)</sup>が脚に続いている点などから分かりました。

### 【調査・接合】

一度古い修復箇所を全て解体し、付着している泥や汚れを取り除きます。今まで表に出てこなかった赤色顔料が見え土偶表面がよりクリアになります。また、首回りの修復箇所を解体することで、X線CTで写った頭部の空洞を見ることができ、土偶の制作方法を探ることができます。

そして、石膏を除去することで、発掘当初の姿に戻すことができ、脚との接合が行えます。

### 【今後の展望】

現在、結髪土偶は「令和元年度 寒河江市埋蔵文化財フェア 結髪型土偶、立ち上がる」(7月25日(木)～8月6日(火))に展示中です。当館結髪土偶の故郷で地元の皆様に上半身と左脚がそろった姿をご覧いただけます。

クラウドファンディング達成後は、約半年をかけて調査・接合を行います。その後、立ちあがった姿で展示するための展示台を作成し、結髪土偶の来歴や新たに分かったことと共に博物館に常設展示します。

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部総務課 山形大学附属博物館（押野美雪）

TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

### ※用語解説

1. 結髪土偶：頭部が髪を結ったような形をしている土製人形。縄文時代晩期、遮光器土偶の後に出現する。
2. 石田遺跡：寒河江市石田の JR 左沢線石田踏切付近。大正 10 年村山軽便鉄道(左沢線)の線路敷工事で縄文時代や弥生時代の遺物が大量に出土、その後昭和 44 年に村山食品株式会社(現サンヨー缶詰株式会社)の工場拡張工事現場から遺物が出土。昭和 55 年には石田遺跡の畑地で宅地造成のための工事で弥生時代の再葬墓が発見された。
3. 刺突文：棒状の道具で突いてできる小さなくぼみの文様。





【お問い合わせ】

山形大学附属博物館

TEL: 023-628-4930

E-mail: [hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)



山形大学  
Yamagata University

ご支援は山形大学 HP から

結髪ちゃんのライフヒストリーに

新たな1ページを！

皆様のご協力お待ちしております！

# Get up! Keppatsu dogui!

90年ぶりに再会した左脚を接合し結髪土偶を立ち上がらせたい！

クラウドファンディングサポート募集中！

募集  
期間

2019年

7月22日(月) ～ 9月20日(金)



山形大学、クラウドファンディング第2弾！  
90年ぶりに再会した左脚を接合して結髪土偶を立ち上がらせたい！

山形大学附属博物館のマスコット  
「結髪ちゃん」の左脚が見つかりました

山形大学附属博物館の代表的な収蔵品である結髪土偶（愛称 結髪ちゃん）は山形県寒河江市石田遺跡から出土した縄文時代晩期の土偶です。

大正時代末頃、寒河江の大地主が上半身と左脚を所蔵していましたが、上半身のみが当館に伝わってきました。大正末から長い間離れ離れになった結髪

土偶でしたが、昨年、元の持ち主の家から寒河江市に寄贈された資料の中から左脚が見つかったのです。

くっつくかな？と思いきや...

しかし、いざ腰と脚を合わせてみようとしたところ、背中側がぶつかって上手く合わせられません。昔、石膏で復元した箇所が邪魔をしていたのです！



考古学参考品絵葉書 個人蔵



昭和30年頃の結髪土偶



結髪土偶左脚

立ち上がった姿でみんなを迎えたい！

本プロジェクトでは、石膏の除去、脚接合に合わせて、古い修復箇所を全て解体し、クリーニング、顔料の調査を行います。全体的な泥や汚れが落ち、赤の彩色が見えやすくなり、脚がつくことで全体像が明らかになります。

縄文人が作った当時の姿に近づくことで、土偶に込められた願いや祈りがどんなものだったのかを感じていただきたい。そして、結髪土偶の来歴を知ることによって文化財を守り伝えていくことの大切さを知っていただきたいと思いクラウドファンディングに挑戦しました。

実現には皆様のご協力が不可欠です。ご支援よろしくお願いたします。

目標金額 1,600,000 円

募集期間 2019年  
7月22日(月)～9月20日(金)

支援方法 寄附型 All or Nothing

プロジェクトの詳細はこちら  
<https://readyfor.jp/projects/keppatsu-dogu>

FacebookやTwitterでも情報発信中！



その他、ご不明な点はお気軽にご相談ください。



令和元年度 寒河江市埋蔵文化財フェア

# 結髪形土偶、 立ち上がる

期間

令和元年 7月25日(木)～8月6日(火)

午前10時から午後7時まで

会場

寒河江市美術館 (フローラ・SAGAE 3階)



結髪形土偶 (山形大学附属博物館蔵)

(山形県寒河江市石田遺跡出土)  
縄文時代晩期

平成末年に、百年の時空を超えて奇跡的に脚部が見つかった結髪形土偶。寒河江市で初公開します。

あわせて、『寒河江市史 環境・考古編』発刊を記念し、寒河江西村山における考古学の先駆者たちを紹介します。

講演

## 結髪形土偶、 立ち上がる

郡山女子短期大学部  
教授 会田 容弘 氏

◆日時：7/27(土)  
午前10時30分～11時30分  
◆会場：フローラSAGAE 502会議室



主催：寒河江市教育委員会

後援：山形大学附属博物館・(公財)山形県埋蔵文化財センター  
山形考古学会・西村山地域史研究会

問い合わせ：寒河江市教育委員会 生涯学習課歴史文化係 (TEL0237-86-8231)



令和元年（2019年）7月25日

## 山大生が最上義光歴史館で特別展を実施

～連携展「山形めめめ～江戸のトレンドランキング」が開幕しました！～

### 【本件のポイント】

- 博物館実習の履修生が企画立案し、展示資料の選定、チラシ原案および解説文作成、列品作業など、展示に関わる全ての業務を体験します。
- 最上義光歴史館との共催で、歴史館の展示室の1コーナーで実施します。
- 今回のテーマは昔も今も変わらない、山形の「めめめ（名所名産名物）」です。



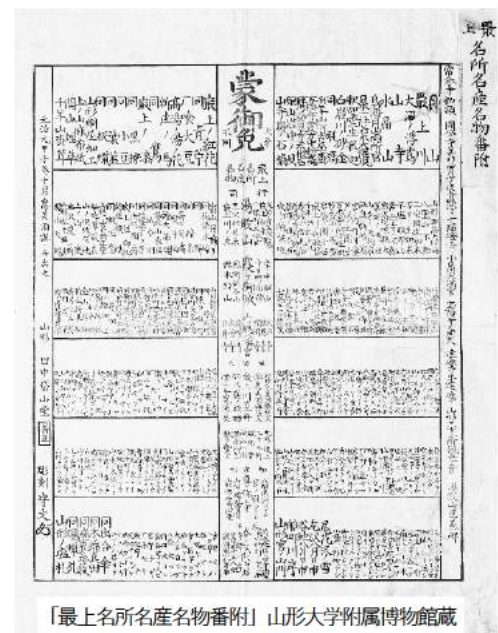
2018年度の履修生

### 【概要】

山形大学において学芸員資格取得を目指す学生たちが、山形大学附属博物館が長年収集し保管してきた貴重な資料の新たな魅力を引き出すことを試みる展示です。本年度で6度目の開催です。今回は「最上名所名産名物番附」を取り上げます。今も有名なもの、今も名物として親しまれているものと、最上家とゆかりがあるものについてご紹介します。

「最上名所名産名物番附」は幕末の元治元年（1864）に発行されました。江戸時代、いろいろなものを番付（番附）風にして比べるのが流行しました。全国的なものには「諸国産物見立相撲」などありますが、この番付表は最上（村山地方）の名所・名産・名物を一覧にしたものです。右に名所、左に名産とそれぞれ130余があげられています。名産の筆頭はやはり「最上ノ紅花」です。その他に沢山の名産と名所があげられており、当時の人々が山形で見るとすべきもの、買うべきものをどのように考えていたのかうかがうことができます。本展では「番付」に記されているものから、今も有名なもの、今も名物として親しまれているものと、最上家とゆかりがあるものについてご紹介します。昔も今も変わらない、山形の魅力について想いを馳せる機会となれば幸いです。

- ・会 期 2019年7月20日(土)～9月8日(日)
- ・休 館 日 7月22日(月)、29日(月)、8月19日(月)、26日(月)、9月2日(月)
- ・開館時間 9時～17時(※入館受付は16時30分)
- ・入 館 料 無料
- ・会 場 最上義光歴史館（山形市大手町1-53 TEL 023-625-7101）



### お問い合わせ

学術研究院准教授（博物館学）佐藤 琴（附属博物館学芸研究員）  
TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kdw.yamagata-u.ac.jp



山形大学附属博物館・  
最上義光歴史館連携展

# 山形

ギャラリートーク

日時 8月8日(木) 13:30～  
内容 山形大学の博物館実習履修生による解説  
会場 最上義光歴史館展示室内  
※聴講無料、事前予約不要

# めめめめ

いしょ

いさん

いぼつ

2019年7月20日(土)～9月8日(日)

～江戸のトレンドランキング～



山寺



和ろうそく(原料漆)

小町紅(紅花原料の口紅)山形大学附属博物館蔵



最上名所産物番附(山形大学附属博物館蔵)

開館時間 9:00～17:00 [入館受付は16:30]  
休館日 7月22日(月)、29日(月)、  
8月19日(月)、26日(月)、9月2日(月)  
入館料 無料  
会場 最上義光歴史館  
〒990-0046 山形市大手町1-53 JR山形駅下車 徒歩15分  
TEL.023-625-7101/FAX.023-625-7102  
<http://mogamiyoshiaki.jp>

■主催  
山形大学附属博物館・公益財団法人山形市文化振興事業団(最上義光歴史館)  
■共催 山形市  
■お問い合わせ  
山形大学附属博物館 受付時間/平日9:30～17:00  
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 TEL.023-628-4930(直通) FAX.023-628-4668  
E-mail [hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp) HP <http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/museum/>

チラシデザイン原案：長谷川立(理学部)、戸田成美、島村美咲、辻唯奈、中島里菜、大和田菜摘、澤田歩香、鏡瑛子、瀧澤夕登、赤城愛、石田宏次郎、高橋俊守(人文社会科学部)



山形大学附属博物館・最上義光歴史館連携展

# 山形めめめ

江戸のトレンドランキング



現在も同じ場所で営業している男山酒造が掲載されたガイドブック『東講商人鑑』1855（安政2）年刊 個人蔵



漆の実（和ろうそくの原料）



紅花

山形大学において学芸員資格取得を目指す学生たちが、山形大学附属博物館が長年収集し保管してきた貴重な資料の新たな魅力を引き出すを試みる展示です。本年度で6度目の開催です。今回は「最上名所名産名物番附」を取り上げることになりました。江戸時代、いろいろなものを相撲の番付風にして比べるのが流行しました。この番付表は主として村山地方の名所・名産・名物を一覧にしたものです。右に名所、左に名産とそれぞれ130余があげられています。名産の筆頭はやはり「最上ノ紅花」です。その他に沢山の名産と名所があげられており、当時の人々が山形で見ると、買うべきものをどのように考えていたのかがうかがうことができます。本展では「番付」に記されているものから、今も名産として親しまれているものと、最上家とゆかりがあるものについてご紹介します。昔も今も変わらない、山形の魅力について想いを馳せる機会となれば幸いです。

山形大学附属博物館

## 周辺MAP



最上義光歴史館

山形大学附属博物館

山形市大手町1-53  
tel.023-625-7101

山形市小白川町1-4-12  
tel.023-628-4930

## 山形大学附属博物館の特別展のお知らせ 特別展「蔵王と山形大学(仮称)」

2019年は山形大学が創設されて70年を迎える記念の年です。そこで、地域に立脚した山形大学の研究活動を振り返るべく、蔵王連峰に焦点をあてた展示を実施します。温泉やスキー、樹氷などが多くの人々をひきつける蔵王連峰の魅力を紹介いたします。

- 【会 期】 2019年8月3日(土)～10月24日(木)
- 【会 場】 山形大学附属博物館・小白川図書館
- 【休 館 日】 8・9月は原則土日祝(8月3日はオープンキャンパスのため開館)。  
その他、夏季休業期間および臨時休館日があります。(ホームページでご確認ください)
- 【開館時間】 9時30分～17時(附属博物館)  
8時15分～17時(小白川図書館は日によって開館時間変更あり)



観光地百選シリーズ 蔵王山 24円切手  
1951年発行 個人蔵



令和元年(2019年)7月25日  
山形大学

\*詳細は別添の資料をご覧ください。

## 1. 「高山岩男文庫」を小白川図書館で展示しています

高山岩男氏は山形市出身の哲学者です。昨年、本学職員であったご子息（S45退職）から、44点の著作を小白川図書館に寄贈いただきました。10月末まで専用コーナーを設置し、展示しています。

## 2. 第21回基盤教育ワークショップの開催について

大学教育の発展を目的として平成11年から開催しているワークショップ。今年は、農業用ロボット・AI技術研究の第1人者である北見工業大学の星野洋平教授を基調講演にお迎えします。ワークショップは、原則として高等教育関係者を対象として実施しますが、基調講演のみ、ロボット・AI等に興味のある農業関係者の方等の参加も可能です。

開催：9月13日(金)

会場：山形大学小白川キャンパスA5（基盤教育3）

申込み：9月1日(日)まで

## 3. 高校生対象『生物の多様性を考える－土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用－』開催 ～9月28日（土）、鶴岡キャンパスで開催～

高校生を対象に本学の最先端の研究成果の一端を紹介しながら大学での実験・実習を体験してもらうプログラムです。

日時：9月28日(土) 9:00～15:15

会場：山形大学鶴岡キャンパス 農学部3号館401講義室

対象：高校生／定員20名

申込み：9月13日(金)まで※定員になり次第終了

## 4. アフリカ地域の農業関係者が山形大学農学部で研修を開始 ～アフリカ地域稲作後処理研修～

8月19日(月)～9月27日(金)の約6週間にわたり、アフリカから17名の研修生が農学部で研修を開始します。稲作収穫後理論の学習、稲刈実習、乾燥施設・農業機械工場の見学などを行う予定です。

## 5. 小学生対象「夏だ！科学体験教室」を庄内で開催

夏休みの期間中子どもたちに科学の楽しさと不思議さを体験してもらう科学体験教室を今年も庄内で開催します。

日時：8月10日（土） 10:00～15:00頃

会場：エスモール（鶴岡市錦町2-21）

参加費：無料

※裏面へ続く

## 6. 地域教育文化学部公開講座「ウォーターレス・リトグラフ体験」を開催

工程が難しいとされてきたリトグラフをわかりやすく解説し、簡便でスピーディーに制作できる近年開発された新技法ウォーターレス・リトグラフを紹介します。

日 時：10月19日(土)・26日(土)10:30~16:10

会 場：地域教育文化学部 1号館132演習室

対 象：一般市民（定員20名）

受講料：3,000円

申込み：9月27日(金)まで

## 7. シンポジウム「『昭和』を生きた台湾青年 王育徳」開催

～日本で育まれた台湾の民主化運動～

山形市の友好提携都市、台湾・台南生まれの王育徳に関するシンポジウムを開催します。

日 時：8月25日（日） 13:00～16:00

会 場：山形大学小白川キャンパス人文社会科学部205教室

申込み：8月7日(水)まで

## ※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

### ◎ OSHINのふるさとでインドネシアの留学生が農業を学びます

～さくらサイエンスプラン2019年度第1回採択事業～

科学技術振興機構（JST）が実施する「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」2019年度公募・第1回審査において、本学の交流計画が採択されました。プログラムでは、「OSHINのふるさと山形から考える世界の環境保全と持続可能な農業」をテーマに、8月1日から8月7日までの7日間、インドネシアの2大学から合計15名の学生・教員を招聘します。



令和元年（2019年）7月 25日

## 「高山岩男文庫」を小白川図書館で展示しています

### 【本件のポイント】

- 山形市出身の哲学者・高山岩男氏の著作44点を受入。小白川図書館3階に専用スペースを設け、受入れた著作44点を展示中。
- 本学にゆかりのある高山英夫氏のご子息である治男氏からのご寄贈。
- 小白川図書館所蔵の「高橋文庫」に次ぐ、哲学関係の文庫として稀少なコレクションとなる。



### 【概要】

去る2019年4月に、本学にゆかりのある高山英夫（こうやまひでお）氏<sup>※1</sup>のご子息である治男（はるお）氏から、当館へ寄贈の依頼がありました。寄贈いただいた図書は、治男氏の叔父にあたる岩男（いわお）氏の著作44点です。

高山岩男氏は、山形市出身の哲学者。京都帝大哲学科卒。在学中、西田幾多郎に師事し、西田哲学を学んだ京都学派の代表的哲学者のひとりです。

寄贈図書44冊は、小白川図書館3階・校友会寄贈図書コーナーの一角に専用スペースを設け、図書目録・岩男氏のプロフィール・山形新聞社の過去の高山岩男特集記事（展示許諾取得済み）と併せて展示しています。

### 【高山岩男氏について】

こうやまいわお。1905（明治38）～1993（平成5）。山形市生まれ。京都帝大哲学科卒。在学中、西田幾多郎、田辺元、和辻哲郎等に学ぶ。西田哲学を基にヘーゲルを研究。京都学派の代表的哲学者の一人。京都大、日大、東海大教授などを経て秋田経済法科大学長を務める。主著に「西田哲学」「文化類型学」「教育哲学」「政治家への書簡」など。

### 【展示予定期間】

展示予定期間：令和元年（2019年）10月31日（木）まで。

展示場所：小白川図書館3階「校友会寄贈図書コーナー」の一角。

その他：閲覧および貸出可能。

※1 昭和38年5月 本学文理学部事務長在職。昭和45年3月 退職。

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部教務課図書担当（会田忠弘）

TEL 023-628-4914 メール jsagaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

# 高山岩男文庫目録

山形大学小白川図書館

令和元年6月



書名	著者名	出版者	出版日付	資料ID	請求記号
新體制國民講座 第2輯:日本精神篇	樋口正徳編輯	朝日新聞社	1941-1942	111900712	081//シンタ//2
哲學の運命	高山岩男著	玄林書房	1948.10	111900702	101//K 1//2
哲学とは何か	高山岩男著	創文社	1967.5	111900675	101//テツガ
哲學概説(アテネ新書:11)	高山岩男著	弘文堂	1950.4	111900689	101//テツガ
哲學年表	高山岩男著	弘文堂	1951.6	111900711	103.2//テツガ
哲學用語辭典(アテネ文庫:115)	高山岩男著	弘文堂	1950.7	111900688	103//K 2//1
世界史的立場と日本	高坂正顕 [ほか] 著/藤田親昌編	中央公論社	1943.3	111900709	104//K 10//2
哲學と哲學的實存	高山岩男著	弘文堂書房	1948.10	111900704	104//K 14//1
理性・精神・實存	高山岩男著	國立書院	1948.4	111900703	104//K 14//2
哲學の世界	武内義範 [ほか] 編	創文社	1985.7	111900696	104//テツガ
哲學的人間學	高山岩男著	岩波書店	1938.6	111900694	114//K 3//1
實存哲學の話	高山岩男著	實文館	1949.10	111900701	114//K 3//2
辯證法入門(アテネ文庫:53)	高山岩男著	弘文堂	1949.3	111900713	116.4//ペンシ
場所的論理と呼應の原理	高山岩男著	弘文堂	1951.2	111900687	116//K 1//1
文化類型學 19版(教養文庫:4)	高山岩男著	弘文堂書房	1942.3	111900708	118//K 1//1a
文化類型學研究	高山岩男著	弘文堂書房	1941.7	111900697	118//K 1//2
日本の課題と世界史	高山岩男著	弘文堂書房	1943.8	111900707	118//K 1//3
文明の哲学:没落の問題をめぐって	高山岩男著	東海大学出版会	1974.10	111900678	118//ブンメ
西田哲学とは何か(燈影撰書:13)	高山岩男著	一燈園燈影舎	1988.6	111900699	121.6//ニシダ
西田哲学 [正]	高山岩男著	岩波書店	1935.4-1940.5	111900692	121.9//K 3//1-1
西田哲学 続	高山岩男著	岩波書店	1935.4-1940.5	111900693	121.9//K 3//1-2
ヘーゲル(西哲叢書:20)	高山岩男著	弘文堂書房	1936.2	111900695	134//K 7//1
道徳の危機と新倫理	高山岩男著	創文社	1952.2	111900686	150//K 2//1
教育と倫理	高山岩男著	創文社	1968.5	111900674	150//K 2//2
道徳とは何か:倫理学入門	高山岩男著	創文社	1958.4	111900670	150//ドウト
所の倫理(教養文庫:[134])	高山岩男著	弘文堂書房	1947.6	111900705	151//K 2//1
宗教はなぜ必要か(フォルミカ選書:8)	高山岩男著	創文社	1953	111900685	160//K 1//1

書名	著者名	出版者	出版日付	資料ID	請求記号
現代の不安と宗教	高山岩男著	創文社	1955.1	111900672	160//K 1//2
宗教：人間の求むる最後のもの	高山岩男著	秀文館	1949.3	111900690	161.1//シユウ
世界史の哲學	高山岩男著	岩波書店	1942.9	111900710	201//K 2//1
マルクシズムの超克	高山岩男著	弘文堂	1949	111900691	304//K 5//1
文化國家の理念(新學藝叢書:1)	高山岩男著	秋田屋	1946.12	111900706	304//K 5//2
二つの世界に抗して：文明の破局と人類の對決	高山岩男著	中央公論社	1954.2	111900676	304//フタツ
政治家への書簡[正]	高山岩男著	創文社	1979-1984	111900683	310.4//セイジ//1
政治家への書簡 続	高山岩男著	創文社	1979-1984	111900684	310.4//セイジ//2
中立の過去と現在：國際的中立の研究	高山岩男著	大学出版協会	1956.12	111900671	310//K 2//1
國際的中立の研究	高山岩男著	時事通信社	1968.6	111900681	319//コクサ
協同社会の精神(協同主義叢書:2)	高山岩男著	協同組合懇話会	1955	111900673	361.4//キヨウ
教育者への書簡	高山岩男著	玉川大学出版部	1979.9	111900682	370.7//キヨウ
教育哲学	高山岩男著	玉川大学出版部	1976.4	111900677	371.1//キヨウ
教育愛と教師の權威	高山岩男著	玉川大学出版部	1982.7	111900700	371.1//キヨウ
教科書裁判と社会科教育(時事新書)	高山岩男編	時事通信社	1971.6	111900680	375.9//キヨウ
學生と西洋	河合栄治郎編	日本評論社	1941.4	111900698	377//K 6//8
日本民族の心：文化類型学的考察	高山岩男著	玉川大学出版部	1972	111900679	389.1//ニホン



令和元年（2019年）7月25日

## 第21回基盤教育ワークショップの開催について

### 【本件のポイント】

- 高等教育の質の向上とその保証が、以前にも増して求められている現在において、本ワークショップでは、大学をはじめとする高等教育全般の発展を目的とし、開催するものです。
- 基調講演として、農業用ロボット・AI技術研究の第一人者である北見工業大学教授の星野洋平氏より講演いただくほか、有識者の方をお招きして3つのテーマにより分科会も実施します。
- 対象者は、原則として高等教育関係者とさせていただきますが、基調講演のみ、ロボット・AI等に興味のある農業関係者の方等の参加も可能です。



### 【概要】

山形大学教育開発連携支援センターでは、大学教育の発展を目的として、本学の教職員および学外からの参加者が一緒に議論を深め、相互研鑽を図る「基盤教育ワークショップ」を平成11年から開催しています。21回目となる今回は、農業用ロボット・AI技術研究の第一人者である北見工業大学の星野洋平教授を基調講演の講師として迎えます。北見工業大学では平成30年7月にオホーツク農林水産工学連携研究推進センター（通称 Caffé）を設置し、農業・林業・水産業における労働力不足に対抗するため、研究レベルにとどまらず実用化を最終目標とした一次産業へのロボット技術の導入やAI技術の応用を目指した研究と教育に取り組んでいます。こういった取り組みを紹介し、一次産業を支える工学技術を持った人材育成のための教育について参加者とともに考えます。ワークショップは、原則として高等教育関係者を対象として実施しますが、基調講演のみ、ロボット・AI等に興味のある農業関係者の方等の参加も可能です。

### 【開催要項】

日時：令和元年9月13日（金）開場9時、10時～16時30分

場所：山形大学小白川キャンパス A5（基盤教育3）

プログラム

10:00 開会

10:15-12:00 基調講演「農業における人手不足と求められる自動化・ロボット化  
-北海道の大規模農業とロボット・AI技術の研究・教育-

講師 北見工業大学 オホーツク農林水産校学連携研究推進センター  
副センター長（農業連携）教授 星野洋平氏

12:00-13:30 休憩

13:30-16:30 ラウンドテーブル

第1分科会 「これからのデータサイエンス教育～何を学ぶ？何が求められる？～」

第2分科会 「高大連携における大学の役割」

第3分科会 「地域学習・協同学習型授業の展望」

※参加料無料

※詳細やお申し込み方法については、以下 URL をご確認ください。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsubasa/news/images/2019WS.pdf>

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部教務課教育企画担当（佃）

TEL 023-628-4720 メール k3cen@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

第21回 基盤教育ワークショップ 要項

趣 旨： 学士課程教育におけるFDが義務化された現在、大学教育の質の向上が以前にも増して求められています。本ワークショップは、大学教育の発展を目的とし、相互研鑽の理念の下、本学の教職員および「FDネットワーク”つばさ”」を始めとした学外からの参加者と一緒に議論を深めていきます。

日 時： 令和元年9月13日（金）10：00～16：30

場 所： 山形大学小白川キャンパスA5（基盤教育3号館）

時間	プログラム
9:00	受付開始
10:00	開会 司会・挨拶 山形大学教育開発連携支援センター長／教授 小田隆治
10:15 (90分)	<p><b>【第1部】基調講演（基盤教育3号館312教室）</b></p> <p>講 師： 北見工業大学 オホーツク農林水産工学連携研究推進センター副センター長（農業連携）教授 <b>星野 洋平 氏</b></p> <p>演 題：「農業における人手不足と求められる自動化・ロボット化 —北海道の大規模農業とロボット・AI技術の研究・教育—」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;講演内容&gt; 北見工業大学が所在する北海道北見市とその周辺はオホーツク地域とよばれ、雄大な自然に囲まれ、穏やかな天候で知られています。また、この地域は、帯広市周辺の十勝地方と並び、国内有数の農業・林業・水産業の生産高を誇る地域です。しかし、高齢化や地域の人口減少に伴って一次産業に関わる労働力の高齢化と不足が深刻な問題となりつつあります。このような問題に対し、北見工業大学では平成30年7月にオホーツク農林水産工学連携研究推進センター（通称Caffe）を設置し、農業・林業・水産業における労働力不足に対抗するため、研究レベルにとどまらず実用化を最終目標とした一次産業へのロボット技術の導入やAI技術の応用を目指した研究と教育に取り組んでいます。この講演では北見工業大学の取り組みをご紹介します。一次産業を支える工学技術を持った人材育成のための教育について皆さんとともに考えたいと思います。</p> </div>
11:45	質疑応答
12:00	休 憩
13:30 ～ 16:30 (180分)	<p><b>【第2部】ラウンドテーブル（基盤教育3号館）</b></p> <p><b>第1分科会「これからのデータサイエンス教育 ～何を学ぶ？何が求められる？～」</b></p> <p>コーディネーター・・・山形大学地域教育文化学部 副学部長／教授 <b>中西 正樹</b></p> <p>パネリスト・・・北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター副センター長／大学院理学研究院 教授 <b>大本 亨</b></p> <p>北海道大学 大学院理学研究院 准教授 <b>行木 孝夫</b></p> <p>北見工業大学 副学長／教授 <b>榮坂 俊雄</b></p> <p>東北大学大学院情報科学研究科 副研究科長／教授 <b>尾畑 申明</b></p> <p>山形大学データサイエンス教育研究推進センター長／理学部 教授 <b>脇 克志</b></p>



<分科会内容>

昨今、文系理系を問わずデータサイエンスに長けた人材の育成が叫ばれています。では、具体的にどのようなスキルを持った人材をどのような方法で育成すればよいのでしょうか？この分野は近年急激に重要度を増したということもあり、その教育に関しては現在進行形で議論が進んでいるところです。本分科会では、政府の動向や各大学での取り組みの紹介を元に、これからのデータサイエンス教育の在り方について議論します。

本分科会は「第1部：文系を含む全学向けのデータサイエンス教育（低年次での教育）」及び「第2部：理系向けのデータサイエンス教育（高年次での教育）」の2部構成とし、それぞれのテーマについて、パネリストによる話題提供（各大学の取り組みの紹介、標準カリキュラム策定に向けた議論の紹介）および、一般参加者も含めたディスカッションを行います。

## 第2分科会「高大連携における大学の役割」

コ-ディネーター・・・山形大学理学部 教授 栗山 恭直

パネリスト・・・山形大学企画部 教授 浅野 茂

東北芸術工科大学デザイン工学部 教授/高大接続推進部長 柚木 泰彦

<分科会内容>

高校では、学習指導要領の変更により「総合的な学習の時間」が「総合的な探求の時間」に代わりました。SSH等での理科研究には、大学が関わってきましたが、分野が理系だけでなく文系にも拡大されることになりました。SSHでの文系あるいは、一般の普通科の高校で、探求活動の指導が模索され、大学が関わる事例が以前より増えてきました。東北芸術工科大学が山形県内の高校で大学生とともに活動を行っている事例を紹介してもらいます。大学の高校との連携について考えます。また、山形大学では、初年次教育として学部混在型でスタートアップセミナーを3年前から始めました。大学での学びの基本を中心に演習形式でグループワーク活動を行います。今後、大学に探究活動を経験した学生が入学してくるにあたり、内容を変更する必要があると予想されます。

フロアーの方と情報を共有し、今後の高大連携について議論したいと考えています。

## 第3分科会「地域学習・協働学習型授業の展望」

コ-ディネーター・・・山形大学学士課程基盤教育機構 講師 阿部 宇洋

パネリスト・・・山形大学学士課程基盤教育機構 准教授 橋爪 孝夫

山形大学地域教育文化学部 准教授 滝澤 匡

<分科会内容>

山形大学では、地域をキャンパスとして学ぶ科目「山形から考える」が必修化され3年目を迎えて定着しつつあります。

一方で、「地域を意識的に見つけ直し、その中で具体的な課題発見・解決を考える講義」という本来の意義の面から見ると質の保証が課題になる場合もあります。

この分科会では、発表者が開講している「地域学習・協働学習型」授業による教育効果を検証しながら授業事例を紹介していただき、参加者の方と情報を共有しながら「山形から考える」の展望を議論してみたいと思います。

参加お申し込みはこちらから↓→

<https://em-q.kj.yamagata-u.ac.jp/index.php/425779?lang=ja>

参加申込〆切：令和元年9月1日（日）



※後日申込確認メールをお送りします。3日以内（土日祝日、8/13-8/16を除く）にメールが届かない場合は、お手数ですが、023-628-4720までお問い合わせください。

主催：山形大学教育開発連携支援センター／山形大学データサイエンス教育研究推進センター

共催：北海道大学 数理・データサイエンス教育研究センター

北見工業大学

東北大学 大学院情報科学研究科

令和元年（2019年）7月25日

## 高校生対象特別プログラム

### 『生物の多様性を考える－土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用－』

～9月28日（土）、鶴岡キャンパスで開催～

#### 【本件のポイント】

- 農学＝農業生産のイメージが強い高校生に、農学が食料・生命・環境に関わる総合科学であることや研究分野を横断した学際的な研究の面白さを伝えたい。
- 平成20年度から同プログラムを実施し、今年度12回目。
- 修了生には未来博士号を授与



#### 【概要】

山形大学農学部では、9月28日（土）に鶴岡キャンパスで、高校生を対象に本学の最先端の研究成果の一端を紹介しながら大学での実験・実習を体験してもらおうプログラム「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI『生物の多様性を考える－土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用－』を開催します。（参加無料、要事前申込）。本プログラムでは、土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用についてインドネシアと日本で実施した研究成果を紹介し、土壌微生物・植物・昆虫を対象としたそれぞれの実験・実習を行います。また、プログラム中は実施担当の教員のほか、本学の大学院生・学部生・留学生と一緒に楽しく交流できます。今年も多くの高校生のご参加をお待ちしています。

#### 【プログラムの日程および内容】

- 開催日時： 令和元年9月28日（土） 9時00分～15時15分  
開催場所： 山形大学農学部 3号館401講義室（鶴岡市若葉町1-23）  
対 象： 高校生／定員20名  
参加費： 無料（昼食付き）  
内 容： 【講義】生物の多様性を考える－土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用－  
【実験1】土壌微生物を観察する－菌根菌の役割－  
【実験2】植物を分析する－ポリフェノールの役割－  
【実験3】昆虫を観察する－植食者と捕食者との関係－

申込締切： 令和元年9月13日（金） ※定員になり次第終了

\*詳細は別添の資料をご覧ください。

お問い合わせ 山形大学鶴岡キャンパス事務部総務課企画広報室  
TEL 0235-28-2911  
メール nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp, yamagata-u.ac.jp



# 多様性の生物を考える。

土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用

● 期日 **2019.9/28 Sat**  
9:00～15:15(受付は8:30より開始)

- 会場 山形大学農学部3号館4階401講義室
- 対象 高校生/定員20名 ● 参加費 無料(昼食付)
- 申込締切日 2019.9.13(金)
- 参加ご希望の方は9月13日(金)まで、E-mail、FAX、電話で下記お問い合わせ・お申込み先までお申込みください。



生物の多様性は、進化および生物圏における生命の維持のため重要ですが、すべての生物(微生物、植物、動物)は、個々に生きているわけではありません。それぞれの生物種は、他の生物種とともに一定の生物圏の中に組み込まれて生存競争のもとで相互依存的に生息しています。

そこで本プログラムでは、最初に土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用についてインドネシアと日本で実施した研究成果を紹介し、次に、土壌微生物、植物、昆虫を対象としたそれぞれの実習を行います。

## 生物の多様性を考える



## 未来博士号が授与される高校生対象特別プログラム

- 講師/安田弘法教授/西澤隆教授/依谷圭太郎教授/村山秀樹教授/佐藤智准教授
- 講義/生物の多様性を考える ～土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用～
- 実験1/土壌微生物を観察する ～菌根菌の役割～
- 実験2/植物を分析する ～ポリフェノールの役割～
- 実験3/昆虫を観察する ～植食者と捕食者との関係～

## 主催:山形大学農学部

● お問い合わせ・お申込み先/山形大学農学部企画広報室  
山形県鶴岡市若葉町1-26 〒997-8555 tel.0235-28-2911 fax.0235-28-2886  
E-mail:nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



リサイクル適性(A) この印刷物は、資源の取へリサイクルできます。



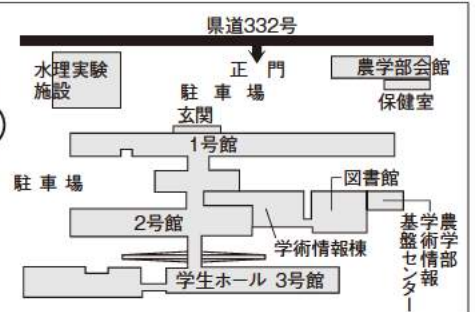


# 生物の多様性を考える。

## ●当日のスケジュール

## 土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用

- 8:30～ 9:00 受付（農学部3号館4階401講義室）
- 9:00～ 9:10 開講式（あいさつ・オリエンテーション・科研費の説明）
- 9:10～ 9:40 講義／生物の多様性を考える  
……土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用
- 9:40～ 9:50 休憩
- 9:50～11:00 実験1／土壌微生物を観察する  
……菌根菌の役割
- 11:00～11:10 休憩
- 11:10～12:20 実験2／植物を分析する  
……ポリフェノールの役割
- 12:20～13:20 昼食（実施担当者・協力学学生と参加者の交流会）
- 13:20～14:20 実験3／昆虫を観察するー植食者と捕食者との関係
- 14:20～15:00 クッキータイム・受講生の作文発表
- 15:00～15:15 修了式（未来博士号授与、アンケート記入、記念撮影）
- 15:15 終了、解散



この申し込み用紙に必要事項をご記入の上、ファックスでお申し込みください。

fax:0235-28-2836

## 参加申込書

令和 年 月 日

●お名前（フリガナ）		<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	
●ご住所 〒 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>			
●TEL ( ) ( ) ( ) ( )	●FAX ( ) ( ) ( ) ( )	●メールアドレス	
●学校名	●学年 ( ) 学年	●年齢 ( ) 歳	●保護者の同意の有無 <input type="checkbox"/> 同意あり
●家族・学校関係者見学（参観）の有無 <input type="checkbox"/> 参観あり <input type="checkbox"/> 参観なし	●参観ありの場合 同伴者氏名	住所	年齢 ( ) 歳
●このプログラムに期待すること			

## 注意事項

当講座の様子については、写真撮影の上、各種広報誌やWeb上等に掲載することがありますので予めご了承願います。顔写真の撮影等につき特段のご要望がある場合は、担当職員にお申し出ください。

- ご記入いただいた個人情報については、本事業に関する準備、連絡以外には使用いたしません。
- 不明な点などがありましたら、下記までご連絡ください。

〈お問い合わせ・お申込み先〉山形大学農学部企画広報室  
山形県鶴岡市若葉町1-23 〒997-8555 tel.0235-28-2911 fax.0235-28-2836  
E-mail:nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ひらめき、ときめき、サイエンス

検索

●下記のホームページからお申し込みができます。

<https://www.jsps.go.jp/hirameki>

リサイクル選性(A) この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。





令和元年7月25日

## アフリカ地域の農業関係者が山形大学農学部で研修を開始 ～アフリカ地域稲作後処理研修～

### 【本件のポイント】

- 8月19日（月）より、アフリカ14ヵ国17名の研修生が『アフリカ地域稲作収穫後処理コース』研修を開始。
- 約6週間にわたり稲作収穫後理論の学習、稲刈実習、乾燥施設・農業機械工場の見学などを行う。
- 本研修では、山形県、秋田県、鶴岡市、JA鶴岡、地元生産者等が協力。
- 最終日に、研修生によるそれぞれの国の課題改善と技術普及プランの発表および修了書授与式を行う。



### 【概要】

8月19日（月）より、アフリカ14ヵ国17名の研修生が本学農学部において『アフリカ地域稲作収穫後処理コース』研修を開始します。日本有数の米どころ庄内で、約6週間にわたり稲作収穫後理論の学習、稲刈実習、乾燥施設・農業機械工場の見学などを行います。今年も山形県、秋田県、鶴岡市、JA鶴岡、地元生産者の協力を得て本研修を実施する予定です。研修最終日には、研修生がそれぞれの国の課題改善と技術普及プランの発表を行なった後、修了書授与式が行なわれます。

- ★研修期間：令和元年8月19日（月）～9月27日（金）
- ★参加国：エチオピア、カメルーン、ギニア、コートジボワール、コンゴ民主共和国、ザンビア、シエラレオネ、スーダン、セネガル、トーゴ、ブルキナファソ、ベナン、マダガスカル、マラウイ
- ★使用言語：英語・フランス語
- ★コーディネーター：片平 光彦 教授（生産機械システム工学）、角田 憲一 准教授（栽培土壌学）、佐々木 由佳 准教授（栽培土壌学）

### 【背景】

アフリカ開発会議（TICAD）において、日本政府はアフリカ諸国の稲作発展に貢献することを約束しています。このような背景のもとで、本学農学部と独立行政法人国際協力機構（JICA）は、平成20年よりアフリカ諸国を対象にした米生産に関わるさまざまな技術研修を実施してきました。現在、稲作技術者を対象としたJICAと大学による研修事業は国内で山形大学のみが実施しています。

### 【今後の展望】

本研修ではこれまでに165名もの修了生を送り出しており、本学で得られた知識や技術はアフリカの多くの国々へと広がっていると思われます。今後もこの研修事業を継続することにより、山形大学がアフリカの稲作発展に対して貢献していきたいと考えています。

お問い合わせ  
学術研究院 教授 片平 光彦（農学部担当）  
山形大学鶴岡キャンパス事務部総務課企画広報室 内田  
TEL 0235-28-2910 メール nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



お問い合わせ  
 学術研究院 教授 片平 光彦 (農学部担当)  
 山形大学鶴岡キャンパス事務部総務課企画広報室 内田  
 TEL 0235-28-2910 メール nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



令和元年（2019年）7月25日

## 小学生対象「夏だ！科学体験教室」を庄内で開催

### 【本件のポイント】

- 夏休みの期間中子どもたちに科学の楽しさと不思議さを体験してもらう科学体験教室を今年も庄内で開催します。
- 子ども達の理科離れに歯止めをかけることを目的に平成25年度から県内各地で開催しています。
- 山形大学SCITAセンター学生スタッフ、スライム、クラゲの各マイスターがそれぞれのブースで科学の面白さを伝えます。



### 【概要】

山形大学 SCITA センターでは、「やまがた科学の花咲く」プロジェクトで養成された『科学の花咲かせ隊』のサイエンスコミュニケーターと山形大学 SCITA センター学生スタッフが科学を通して地域との交流を積極的に行っています。

毎年、夏休みには庄内で小学生を対象とした科学体験教室を実施しており、今年も科学の楽しさ、不思議さを伝えます。山形大学 SCITA センター学生スタッフと『サイエンスコミュニケーター』スライムマイスター、クラゲマイスターがそれぞれブースを出展し一緒に子どもたちの指導にあたります。開催は、8月10日（土）鶴岡市のエスマールで行います。

### 【講座内容】

- 開催日時 : 令和元年 8月10日（土） 10時～15時頃  
開催場所 : エスマール（鶴岡市錦町2-21） 1階 ヒカリの広場、2階 まなびの広場  
講座内容 : 参加者に各マイスター、山形大学 SCITA センター学生スタッフが各ブースで科学体験してもらいます。
- ・スライムマイスター : のび～るスライムとスライムボールの作成
  - ・クラゲマイスター : クラゲタふれあいコーナー クラゲタッチと展示
  - ・SCITA センター学生スタッフ : 泡の出るしゅわしゅわ入浴剤の作成

- 【申込方法等】 直接会場にお越しください。  
参加料 無料

※ 山形大学 SCITA センターは、理科学習の普及活動を促進するための本学独自の「やまがた未来科学プロジェクト」に基づき、科学的思考能力を備えた将来の山形あるいは日本を支える人材を育成する目的で設置されました。養成されたサイエンス・コミュニケーター（スライムマイスター、クラゲマイスター、蔵王マイスター、月山マイスター）たちは、『科学の花咲かせ隊』として地域や家庭で科学の不思議さや面白さを教えるイベント等で活躍しています。小学生から大人まで、全県民を対象に開催する体験型の科学実験教室プログラムイベントを提供して昨年は約8,000人の方に参加いただきました

お問い合わせ  
山形大学 SCITA センター（棚井）  
電話 023-628-4517

# 夏だ！科学体験教室

参加無料  
予約不要

2019. 8. 10 (土)  
10:00~15:00  
(受付終了14:45)

会場：エスマール（鶴岡市）2Fまなびの広場/1Fヒカリの広場

スライム  
マイスター  
のび～るスライム・  
スライムボール  
をつくろう



クラゲ  
マイスター  
クラゲふれあい  
コーナー



SCITA  
学生スタッフ  
しゅわしゅわ入浴剤  
をつくろう



※小さなお子さまは保護者同伴でお願いします

## お問合せ

やまがた『科学の花咲く』プロジェクト事務局

山形大学SCITAセンター

〒990-8560 山形県山形市小白川一丁目4-12 TEL/FAX (023)628-4517

E-mail [kagaku-scita@sci.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:kagaku-scita@sci.kj.yamagata-u.ac.jp)

URL <http://www.yamagata-u.ac.jp/scita/chiiki/>



主催：やまがた『科学の花咲く』プロジェクト  
後援：鶴岡市立加茂水族館、株式会社庄交コーポレーション



令和元年（2019年）7月25日

## 地域教育文化学部公開講座 「ウォータレス・リトグラフ体験」を開催

### 【本件のポイント】

- 難解で工程が難しいとされてきたリトグラフをわかりやすく解説し、簡便でスピーディーに制作できる近年開発された**新技法ウォータレス・リトグラフ**を紹介。
- エコロジカルな発想から開発されたため、**教育関係機関やお子さん**も安心して制作でき、**難しそうで手がでなかったリトグラフを制作してみたい**という意欲をお持ちの方等、様々な方にご参加いただけます。
- 本講座では、1日90分×3コマの講習、実技を2日にわたって行います。



### 【概要】

リトグラフとはもともと、多孔質の石を使う、石版画。アイロセゼネフェルダーが発明し、水と油の反発を利用して製版するもので油性の描画材を使用して描画し、非描画部分にアラビアゴムを作用させて耐水性部分を作り、水を引きながら油性の製版インクを盛って製版します。その後、刷り用インクに盛替えて印刷するという工程をとります。

ウォータレス・リトグラフは近年、逆転の発想によって開発された新技法です。水溶性の鉛筆で描画し、水を使っていた非描画部分をシリコンで固め、水を使わないで製版するのでウォータレスと言われます。

従来の方法は版面を手の汚れが付かないように気をつかったり、一度描いた部分は消せないで確実なデッサン力を必要としました。また、版は壊れやすく繊細で工程がわかりにくく、製版に2日から3日ほどかかりました。

ウォータレス・リトグラフは高級印刷のドライ印刷法を一般化したもので工程は非常にシンプルでスピーディーです。版は壊れにくく、鉛筆で描画するので描いたり消したりでき、版面を触っても支障ありません。エコロジー意識から発想されたものなので有機溶剤を使いません。もちろんカーボン紙で写したり、直接下書きなしで描いてもかまいません。学校教育やお子さんでも安心して制作できます。

ウォータレスは大学でもとりあげているところは少ない新技法です。ウォータレスの効果は従来のものを知らないとその凄さが実感できないところがありますが、まずはウォータレスを体験して、その簡便さを楽しんで頂きたいと思っています。

【日 時】 10月19日（土）・26日（土）  
10：30～16：10

【場 所】 地域教育文化学部1号館132演習室

【対 象】 一般市民（定員20名）

【受講料】 3,000円

【申し込み】 9月27日（金）までに電話でお申し込みください。

お問い合わせ  
小白川キャンパス事務部総務課総務担当（地域教育文化学部）  
TEL 023-628-4305

## 講座の概要

本講座では、近年開発された版画新技法ウォータレス・リトグラフの紹介と実技講習を行います。従来のリトグラフは工程が難解で難しい技法だと言われてきましたが、ウォータレスの工程は非常にシンプルでスピーディーです。エコロジカルな発想から開発されたものなのでどなたでも安心して版画制作を楽しんで頂けます。

10月19日(土)、10月26日(土)

午前10時30分～16時10分

## 講座内容

- ① 10月19日(土) 午前『版画の歴史と変遷・ウォータレス・リトグラフ原理』  
午後『転写・描画・シリコンゴム塗布製版実技』
- ② 10月26日(土) 午前『試刷りと本刷り』  
午後『講評会』

山形大学地域教育文化学部

一般市民<定員20名>

教授 八木 文子

場 所

3,000円

山形大学地域教育文化学部  
1号館132演習室(3F)

申込先・問合せ先

山形大学地域教育文化学部事務室

9月27日(金)までに  
電話で申込ください。

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 TEL 023-628-4305

備考：汚れてもいい服装と下絵をご準備ください。



令和元年（2019年）7月25日

## シンポジウム「『昭和』を生きた台湾青年 王育徳」開催 ～日本で育まれた台湾の民主化運動～

### 【本件のポイント】

- 山形市の友好提携都市、台湾・台南市生まれの王育徳に関するシンポジウムを開催。
- 王の台湾語研究について本学の中澤信幸教授が、王の民主化運動について次女・王明理氏が講演し、それらの歴史的意味について討論する。
- このシンポジウムを通して、山形市と台南市との相互理解のさらなる深化を目指す。

### 【概要】

山形市は台南市と友好都市提携を結びましたが、実際の交流はまだこれからです。その交流を深めるためには、お互いの歴史や文化を知ることが重要です。台南市出身の偉人・王育徳（1924～1985）は日本統治時代の台湾で教育を受け、その後東京帝国大学に入学しました。戦争のため台湾に戻りましたが、「二二八事件」とその後の恐怖政治をきっかけに、日本に亡命しました。その後は自分の母語である台湾語の研究を進め、また日本で台湾独立運動、民主化運動に奔走しました。これに加えて、台湾人元日本兵士の補償問題にも取り組みました。昨年には、王の活動を顕彰した「王育徳記念館」が台南にオープンしました。この王の台湾語研究、また台湾独立運動や台湾人元日本兵士の補償問題について知ることで、その背景となった台湾や台南の歴史・言語・文化について考えていきます。



### 【日時】

2019年8月25日（日） 13:00～16:00

### 【場所】

山形大学小白川キャンパス人文社会科学部 205 教室

### 【講演者・題目】

中澤信幸（山形大学学術研究院教授、山形大学都市・地域学研究所所長）  
「王育徳の台湾語研究の意味」  
王明理（台湾独立建国聯盟日本本部委員長）  
「王育徳と台湾民主化運動」

モデレーター 松尾剛次（山形大学名誉教授、山形大学都市・地域学研究所名誉所長）

### 【主催】

山形大学都市・地域学研究所

### 【申し込み】

参加ご希望の方は、電話または電子メールにて、お名前とご連絡先をお知らせください。

※参加費（資料代）として200円を頂戴いたします。

電話 023-628-4871（月～水・金曜日午前中のみ） 電子メール toshiken@human.kj.yamagata-u.ac.jp

お問い合わせ

学術研究院教授 中澤信幸（日本語学）

TEL 023-628-4822 メール nakazawa@human.kj.yamagata-u.ac.jp

2019.8.25 (日)

13:00-16:00

場所：山形大学  
小白川キャンパス  
人文社会科学部  
205教室

参加費：200円 (資料代)

主催：山形大学都市・地域学研究所

共催：日台政策研究所



## 講演

中澤信幸 (山形大学人文社会科学部教授)  
王育徳の台湾語研究の意味  
王明理 (台湾独立建国聯盟日本本部委員長)  
王育徳と台湾民主化運動

## パネルディスカッション

王育徳の台湾語研究・台湾民主化運動等について  
振り返り、その歴史的意義について考える。

モデレーター 松尾剛次  
(山形大学都市・地域学研究所名誉所長、  
日台政策研究所理事長)

【お申し込み方法】参加ご希望の方は、電話または電子メールにて、お名前とご連絡先をお知らせください。(8月7日まで。)

電話 023-628-4871 (月～水・金曜日午前中のみ)

電子メール toshiken@human.kj.yamagata-u.ac.jp

シンポジウム  
「昭和」を生きた台湾青年  
王育徳  
—日本で育まれた台湾の民主化運動—



# シンポジウム 「昭和」を生きた台湾青年 王育徳 —日本で育まれた台湾の民主化運動—

山形市は台南市と友好都市提携を結びましたが、実際の交流はまだこれからです。その交流を深めるためには、お互いの歴史や文化を知ることが重要です。

台南市出身の偉人として、王育徳（1924～1985）が挙げられます。王は日本統治時代の台湾で教育を受け、その後東京帝国大学に入学しました。戦争のため台湾に戻りましたが、「二二八事件」とその後の恐怖政治をきっかけに、日本に亡命しました。その後は自分の母語である台湾語の研究を進め、苦勞の末『台湾語常用語彙』（永和語学社、1957）等のさまざまな著作を出しました。その研究は東京大学に提出した博士学位請求論文『閩音系研究』（1968）に結実しています。

王は明治大学で教授となった他、いくつもの大学で教鞭を執りました。特に東京外国語大学での台湾語講座は、世界初の台湾語の授業となりました。

一方、王は1960年に台湾青年社を創設し、台湾独立運動へと邁進していきます。当時の台湾は国民党政権による戒厳令が続き、いまだ民主化してはおりませんでした。王はこのような政治体制からの「独立」、また台湾は中華人民共和国とも異なるという意味での「独立」を主張しました。その活動は現在も台湾独立建国聯盟で継続中です。

これに加えて、王は台湾人元日本兵士の補償問題にも取り組みました。日本との直接の国交がない中で、王は元兵士たちへの補償を実現すべく尽力し、それがライフワークにもなりました。

昨年には、王の活動を顕彰した「王育徳記念館」が台南にオープンしました。

この王の台湾語研究、また台湾独立運動や台湾人元日本兵士の補償問題について知ること、その背景となった台湾や台南の歴史・言語・文化について考えていきます。



## 講師の紹介



### 中澤信幸 Nakazawa Nobuyuki

三重県四日市生まれ。山形大学人文社会科学部教授。山形大学都市・地域学研究所所長。日台政策研究所理事。名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。専門は言語学、日本語音韻史、日本漢字音、中国語音韻史、台湾語など。台湾とは2002～04年に大学の日本語教員として奉職して以来、関わりを持ち続けている。著書は『中近世日本における韻書受容の研究』（おうふう、2013）。また「日本語教育における台湾語音活用と「日台基本漢字」」（『台湾文学研究』8、国立成功大学台湾文学系、2015）、「東方孝義編『台日新辞書』所収語彙の特徴」（『天理臺灣學報』27、2018、共著）等、台湾語に関する論考多数。



### 王明理 Ō Meiri

東京生まれ。慶應義塾大学文学部英米文学科卒業。台湾独立運動に尽力した父・王育徳の意志を受け継いで、台湾独立建国聯盟日本本部委員長に就任。『王育徳全集』編集委員。著書は詩集『ひきだしが一杯』（創造書房、2003）、翻訳書『本当に「中国は一つ」なのか』（ジョン・J・タシク著、草思社、2005）ほか。編著として王育徳の回想をまとめた『「昭和」を生きた台湾青年 日本に亡命した台湾独立運動者の回想1924-1949』（草思社、2011）。

## アクセス

山形大学小白川キャンパス

〒990-8560 山形県山形市小白川町1-4-12

- ・JR山形駅から  
東方へ約2km（徒歩25分）  
ベニちゃんバス「東くるりん 東原町先回りコース」で  
「山大前」下車（所要時間約9分）  
市内路線バス「県庁前・県庁北口行き」で「南高前・山大入口」下車（所要時間約6分）、そこから徒歩約7分
- ・JR仙台駅から  
高速バス「山形行き」で「南高前・山大入口」下車（所要時間約55分）、そこから徒歩約7分

お問い合わせ 山形大学都市・地域学研究所

☎023-628-4871 ✉toshiken@human.kj.yamagata-u.ac.jp

